

1998-2006年の春季に日本の山岳地域で観測された対流圏オゾンの増加

Increase in springtime tropospheric ozone at a mountainous site in Japan for the period 1998-2006

谷本 浩志 [1]

Hiroshi Tanimoto[1]

[1] 環境研

[1] NIES

長野県八方尾根観測所における連続観測データをもとに、1998年から2006年までの対流圏オゾンのトレンドを春季について調べたところ、年率1 ppbvの平均濃度の増加が有意に検出された。また、2003年以降、高濃度オゾン（例えば84 ppbv以上）が観測された日数が増えていることが分かった。2003-2006年の「高濃度オゾン日」は、1999-2002年の2倍にもなっており、同時期に成長著しい東アジア地域からの越境汚染の影響が示唆された。